

東建パブリニュース

平成29年6月30日

経営管理本部 広報IR室

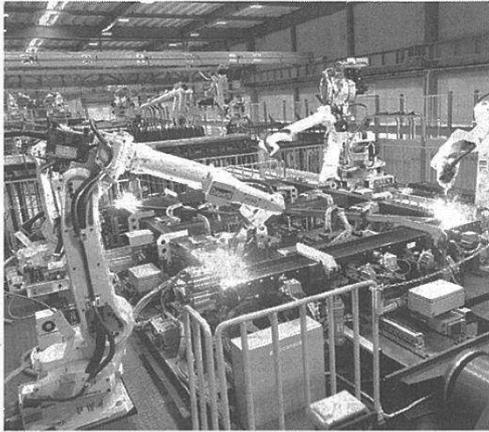
《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

掲載

平成29年6月28日 日刊工業新聞 P.16

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。

制震フレーム 自動溶接



NK 深谷工場の自動溶接ライン
(ナスラック提供)

深谷工場に新ライン

ナスラック、東建に供給

【名古屋】ナスラック（名古屋市中区、左右田稔社長、052・2322・8030）は、12月にNK深谷工場（埼玉県深谷市）の鉄骨アパート用制震フレーム生産工程に、ロボットを活用した自動溶接ラインを新設する。投資額は1億7000万円。親会社の東建コーポレーションのサポートで、地震の力を弱める制震機能の標準化が進んでおり、供給能力を高める。

●ロボット革命

ナスラックはNK深谷工場の新ラインで制震フレームと別に、建物の損傷などを防ぐはたらきがある耐震フレームも生産する。生産能力が不足する既存の耐震フレームラインの負荷低減も狙う。新設するラインは溶接ロボットに使う耐震フレーム

は同約40枚使用する。その耐震フレームは、すでにロボットによる自動溶接ラインを導入している。だが、需要拡大を受けて生産は高負荷状態にある。

NK深谷工場とシエール神戸工場（神戸市西区）の2工場で、残業対応して月間35〜40棟分生産している。今回新設する制震フレームのラインで耐震フレームも生産することにより、残業をせずに耐震フレームの量を同程度生産できるようにする。

東建コーポレーションは16年に高耐震性鉄骨アパートの5割に、制震機能を標準化した。17年12月には標準化率を8割まで高める計画だ。